

木曾川水系河川整備計画（原案）公聴会 桑名会場

日時：平成20年1月18日（金）

19時00分～20時32分

場所：桑名市長島公民館 大ホール

【公述人1】 皆さん、こんばんは。私、桑名市多度町香取の〇〇〇〇でございます。

多度町は700メートルの急峻な多度川からゼロメートル地帯の七郷輪中まで変化に富み、一たん雨が降りますと川への水の出は早く、真っすぐに国の河川に出ていきます。私は80年近く香取地区で住んでおります。消防団、農民として決壊現場で活躍、体験もしました。昔から、アリの一穴で堤防が崩れるとも言われます。子供のころから川遊び、揖斐川、多度川、肱江川の3河川は隅々までわかっておるつもりです。

また、台風や大雨で揖斐川が決壊しませんでした。多度川は数回決壊しております。また、肱江川も上流で決壊した覚えがあります。現在の堤防になってかなりよくなりましたが、今後の工事にさらなる安全な河川にさせていただくために強く望みます。

そこで、今後の工事にあわせて切にお願いしたいと思っておりますことが三、四点ございます。

まず、1点目でございます。多度川は現在途中で改修が進んでおりますが、そこより上流は樹木が茂り、河川としての機能が保たれていないように思われます。ひどい区間では、川幅が40メートルあるところが五、六メートルしか水面が見えません。太い大きな木が何本もあり、直径25センチ以上の木もあります。自然も大事かもしれませんが、生命、財産はもっと大事だと思います。樹木の伐採をお願いし、川の流れをよくしていただきたいと思っております。

最初に言いましたが、多度川改修工事が途中でとまっております。香取橋から国道258号線までの区間は戦前のままです。平成10年ごろに改修に伴う測量がなされましたが、立ち退きの話もあり、地元としては期待しておりましたが、中断しております。そこで、今回の事業計画に、ぜひ、いの一で計画にのせていただき、改良工事の早期完成をお願いいたします。

2点目であります。国の河川には、大小の河川より雨水などとともに土砂も一緒に流入してきます。河川の合流点では土砂の堆積がひどく、川を浅くしております。大雨のとき

などは水位が全体に高くなり、不安になります。県河川の赤沢川合流付近は、多度川が大きく曲がっていることがあると思いますが、長年の堆積によってかなりの川床が浅くなったと思われます。ここは、過去数回決壊しております。昔は遊水地がありましたが、戦後なくなっております。揖斐川の逆流で水位が急激に上がる地点であります。堤防改良工事が済んだ合流地点ではありますが、これも今後の上流の工事とあわせてしゅんせつ工事をよろしくをお願いします。

補足になりますが、ゼロメートル地帯の七郷輪中が決壊しますと浸水します。揖斐川の水位は一気に2メートルほど下がります。揖斐川の危険が回避されると思います。それによって地元七郷輪中は今まで多大の被害がありました。私は農民で、地域住民が大雨のときは巡回し、危険を早く察知したものです。また、決壊したところには、みんな仮復旧までやったものでございます。しかし、最近では地域住民のつながりが希薄になり、地域を守る意識も薄れてきました。水位情報を早く地域に伝わるようにしていただき、安全・安心の体制を整えていただきたいと思います。

次に、3点目でございます。昔の樋管といいますと、今までの樋管は、スルースゲートの前にマイターゲート、観音開きがありました。外水が増えると自然に閉まり、排水調整を行ってまいりました。今の樋管はスルースゲートだけで、マイターゲートはほとんどありません。自然に排水調整ができるマイターゲートは、住んでいる者にとっては非常に重要です。必要な施設であります。また、樋管操作人としてぜひ必要です。

例としまして戸津樋管は、昭和62年に多度地区に80ミリ以上の大雨が降ったときに、内水排水が必要なためスルースゲートが開放になっていましたが、マイターゲートがないため、揖斐川、多度川が急に増水し、香取地区に逆流してまいりました。たまたま私が引っ越してきたときで、心配して回っていて発見し、水害の被害は免れました。このような排水樋管がスルースゲートだけですと、地域の水害に危険が及ぶことがあります。樋管にマイターゲートの設置をお願いします。現在、私は樋管管理人を行っておりますが、毎年、樋管点検の折に設置いただくよう要望しておりますが、実現していません。そのうちに事故が起きるような気がします。

以上、堤防の改良工事、樹木の伐採、しゅんせつ、水位情報のシステム及びマイターゲートの設置をお願いします。いずれ早期着工、早期完成で、地域に住む住民にとって安全・安心につながりますようよろしくをお願いします。

余談になりますが、事務所の所長さんクラスは地域をよくご存じだと思いますが、地域住

民と話し合い、昔の話を聞くことにより、堤防工事が地域の事情に合ったよりよいものになると思います。いろいろ意見を述べさせていただき、よろしく申し上げます。どうもありがとうございました。

【公述人2】 皆さん、こんばんは。私は多度町に住んでおります〇〇〇〇と申します。よろしくお願ひいたします。

私は現在、多度町で東地区といひまして、揖斐川の右岸の堤防の下にある集落に住居を構えておりまして、ご案内するまでもないんですが、当然ゼロメートル地帯の輪中を形態しております地域に住んでおります。したがひまして、私の親、先祖がどういふわけでここに住んだのかは存じ上げておりませんが、私たちは小さいころから水に対する闘いとか不安とか、そういうものの怖さを伝えられて育ってまいりましたし、さらには、水とともに生きてきた、今生きているということが脈々と流れておる地域で育ってまいりました。

私たち、余談ではありますけど、小学校よりもっと前から平田靱負さんには感謝をしろといふことで教育をずっと受けてまいりました。小さいとき、何のことかさっぱりわかりませんでしたけども、この治水工事のことを知るにつれて、大変なる思いで感謝を強めて毎日を過ごしているといふことでありまして、感謝感謝の毎日でありますし、治水の大切さといふところも肝に銘じているところであります。

そして、また、もう一つ余談でありますけれども、この3月1日にご縁がありまして、薩摩義士の遺徳をしのぶ「孤愁の岸」といふ演劇が桑名で演じられるといふことになりました。これも何かの縁であろうかと思ひますし、私も末永くこゝうことは伝えていきたいと、こゝうに考へておりましてご披露申し上げましたけども、皆さんもその辺についてもまたご協力、ご支援をお願ひしたいと思ひます。

本題に入らせていただきます。今回、私も申し上げたいことがいっぱいあるわけですが、こゝうなところ育ったといふことも含めて、特に河川の水には大変神経をとがらせながら住んでいるといふ地域の住民の皆さんの思いの一端を少し抜粋して述べさせていただきますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

1点目は、肱江川の堤防についてであります。写真、画面にあります1、2につきましては、特に2番の地図で申し上げれば、長良川が直撃をして多度町といふところにぶつかっていて、いつも水害を起こしていた歴史があったわけですが、治水、薩摩義士さんのおかげで水害がなくなった、こゝうことで大変ありがたい地域ではあるわけです。後ほど申し上げますが、右のほうに赤い線で囲ってあります肱江川、この辺について特化してお話をさせていただきます。

この肱江川の堤防についてでございますが、ご存じのよゝうに堤防は天井川でありまして、

ふだんは少し水が流れていたり、さらには枯れて河原ばかりであると、石ころばかりであるという様相を呈していたわけではありますが、最近の上流部等で開発が行われている、こういうことからすると、山や森林等が減少しておりますから、河原の石ころは消えてしまひまして、ヨシや草が大変生い茂っているといううっそうとした川になっております。

(スライド)

これで、左側の3番の写真が現在の、河原でなくなってうっそうとしている川ということになります。そして、先に申し上げますが、4番の写真は東海豪雨に出水したとき、それこそ天端まで水が来たという大変危険な状態であった状況の写真であります。このように、今現在、急な大雨があるというときには、当然ながら鉄砲水のように増水をしてくるわけであります。昔とは違った状況であるということで、お年寄り等に聞きますと大変危惧をされているということでもありますので、大変心配が強まってきている、こういう川になっているということが1つです。

それから、昔は増水のときは、大分古い図で松の木があるんですが、今は松の木は1本もなく、増水のときには松の木を切って、それを堤防に張りつけて決壊を防いでいた、こういうことも私たちは見ているわけですが、今はそれ以上に想定外と称する気象状況がありまして、集中豪雨が今までにないような形で襲ってくる、そういうことでありまして、今申し上げた松の木の話をすれば、打つ手がない、暇がないぐらい速い鉄砲水が来るということが実態であります。

したがいまして、地域の先輩の皆さんたちや行政の方々に大変お骨折りをいただきまして堤防の充実強化をしていただいているわけではありますが、申し上げたいのは、その工事が中断をしてしまっているということでもあります。肱江川に限らずでございますけれども、住民が要望しているところが中断をしてしまっている。こういうことについては、私たちもその都度、関係者には質問をしたり要望しているわけですが、なかなかいい返事が返ってこないという実態がありますので、そのものを強調して申し上げたいということでもあります。

(スライド)

今、これは工事は進んでいるわけですが、5番の写真からいきますと、部分的に改修に手をつけられていないということで、堤防が3本残ったままである。これが数年続いているということが1つでありますし、6番目の写真につきましては、中須地区というところが立ち退きを完了して、その部分に盛り土をして、大きい幅の堤防が残ったままでずっと

工事待ちをされている、こういう状況でありますので、私たちは地域住民として、完成後どういう姿になるのかというのが1つと、これがいつ完成をするんだというところをきちんと確認して安心したいと、こういうことであります。

当然ながら、何度も申し上げておりますが、その都度、確認をしたり要望しておりますけれども、なかなかいい返事がない。予算がということも含めていろんな理由があるのかと思いますが、明確にしていきたいということであります。

以上のような背景から、この肱江川につきましては、2番の写真で肱江川が直角に曲がっている部分があると、こういうことで、大変この部分を心配している。増水のときの写真の図でありましたのがこのことをごさいまして、とても強度的に不安が強いということでもありますので、なぜこの辺を含メートル工事が中断をしているのか。私たちは、工事が始まったら遅くとも続けて工事がなされていくんだろうということ信じながら見守っていたわけですが、そういうことになかなかないということで困惑をしております。

それから、あと2分しかございませんので、肱江川の水利について申し上げたいと思います。いろんな打ち合わせをさせていただいているときに、国のほうから水利権の話で、慣行水利権が許可水利権に変わるから、それに従ってほしいということで説明がなされております。私たちは、そのことは関係するまでは初めて耳にするような言葉でありましたので大変戸惑っているわけではありますが、今、肱江川は水がないという川でありますので、田植え期が重なった現在においては水の取り合いをしている、こういうことでありますので、その辺については十分なる説明をして、納得のいく水利権の運営をしていただければと思います。

それから、中須橋のかけかえについては、写真にありますように、大変古いということと国の管轄の肱江川と県道ということがありますので、その辺につきましてはうまく調整をいただいて、肱江川の改修のときに中須橋のかけかえをぜひお願いしたい。右の8番目の図面は、それに影響します多度川とぶつかる部分で、大変細い道がそのままになってしまっているということです。

4番目は、河川の水質について、この整備計画書には一切出てきていないので追加をさせていただいていますが、塩分関係でございます。どういう因果関係かは私らにはとてもわからないわけですが、塩害につきましては、いろんな現象から肌で感じる部分があります。そのことから、この塩分につきましては遡上してきているんじゃないかということ

も含めて、さらには、年寄りのご意見等も何うと、昔に比べて大変濃度が濃くなってきている、こういうことでもありますので、ぜひ塩分のデータをきっちりと出していただきながら、私たちに説明なり対策をしていただきたいということで、よろしく願いいたします。

時間をオーバーしましたが、私たち住民の声を聞いていただけるとい、こういういいチャンスがめぐってまいりましたので、ぜひともその声をきっちりお聞きいただいて、説明もしていただければありがたいと思いますので、よろしく願いします。ありがとうございました。

【公述人3】 皆さん、こんばんは。写真のほう、地図のほうからお願いします。私は、揖斐川の河口から17キロぐらいさかのぼったところにあります田鶴境土地改良区というところで理事長をさせていただいております〇〇〇〇と申します。

揖斐川の右岸の一番初めにあるところの田鶴境土地改良区というのは、マイナス60センチのところにあります。海拔マイナス60センチ、そして、約176ヘクタールあります。そして、隣接する西輪中土地改良区というのが約200町歩あります。そこはプラス20センチから25センチぐらいの田んぼの高さがあるわけなんですね。その内水を排水するために南部排水機場というのが設けられております。毎秒2.5トンのポンプが3台と0.75トンのポンプが1台ということで、2.5トンと0.75トンでの3.25トンで私たちの176町歩の面積の水をかえようとしているわけなんですね。隣の西輪中というのは、高いところにあるながら、全部のポンプを使って8.25トンの毎秒排水能力があるわけなんです。なぜ200町歩を8.25トンで、私たち176町歩の面積のところは何で3.25トンなんやということを今日皆さんに聞いていただきたいということであってここへ参加させていただきました。

私たちのところの176町歩のうち135町歩を現在まだ農地として使っています。耕作しているわけなんですけども、西輪中土地改良区は200町歩のうち78町歩しか農地が残っていません。そして、1番の方が申されたように、高いところにあるということもあって、自然排水がきく状況のところにあるんですね。そこが毎秒8.25トンの排水能力を備えておって、私たちの低いところ、マイナス60センチのところにあるんです。ほかっておいたら水浸しです。それがなぜ3.25トンの排水能力しかないのやということを強く憤っております。できることなら早くやっていただきたいです。

実は、18年4月11日に174ミリ降ったことがあります。私たちの176町歩の中には專業農家の方が15軒おみえになります。イチゴをやってみえる方、トマトをやってみえる方、それから果樹、ブドウとかイチジクなんかをやってみえる方を含めて全部で176町歩の中に專業農家という方が約15軒ほどあるわけなんですね。

ちょうど平成18年4月11日に174ミリ降ったときに、農家の方が泣きついてみえたわけです。もちろん、要員さんをお願いして3.25トンをフルに使わせていただいて一所懸命かえていただいています。にもかかわらず、水かさがどんどん増えてきて、畦畔で自分のところの施設のところを確保しているんですけども、その中の自分のところの水、施設の中の水はポンプでかえておるわけなんですけど、外の水がどんどん増えてきて乗り



越えて中へ入って、イチゴをつくっておみえになる方でしたけども、その年のイチゴがすべてペアになってしまったということで泣きつかれたこともあります。

そして、18年5月9日なんですけども、121ミリ降ったとき、これも同じようにやはり施設の中へ水が入り込んだということがあります。そして、18年6月6日、これが153ミリ降りました。同じようなことになりました。18年はこれを含めて3回そういうことがあったわけなんです。

19年は比較的少なくて、19年7月14日に、このときは140ミリばかり降ったわけなんですけれども、同じように畦畔を乗り越えて、このときは正直言って被害はなかったわけなんですけども、増水して、今か今かというぐらいに心配されたということもあって、そのたびに排水機場をやっていただいております要員さん3名の方のところへみんながどうしてくれるんやと、そして、私のところへも電話がかかってくる。今、一所懸命やってもらっておるんやけど、これが限界なんでねということでやっています。

ですから、南部排水機場、常識で考えてください。高いところにある排水機が、自然排水のきくところが何で8.25トンなんやと。私たちは低いところにおる。それが何で3.25トンなんや。面積はほとんど同じ、200町歩と176町歩なんです。そして、農地として残っておるのは、私たちのが135町歩あるんです。向こうは78町歩こそないんです。この状況が私はどうしても理解できないということで、この公聴会に参加させていただいたわけなんです。

そして、私たちは平成17年のときに県営の担い手育成基盤整備事業というのに取り組みました。そして、国の施策に従って麦をつくり、大豆をつくり、それから稲をつくりと、2年3作に組み込んできました。どうしてもこの状況の中できめ細やかな排水をするのは難しいということもありまして、自動排水装置というのをつけました。これは排水能力がどれぐらいというのはちょっとわかりませんが、50馬力の水中ポンプを1台備えつけて、毎日1日に6時間から7時間かえること、これを365日繰り返しております。たまたま今は比較的雨も少ないときもありまして、今は5時間ばかり動いて、あとの19時間ばかりがとまるというのを毎日繰り返してやっています。それによって今は、田鶴川というんですけれども、マイナス150から170センチぐらいで保って、麦もつくり、大豆もつくり、稲もつくるというのに取り組んでおります。

こういうことも含めて、ぜひ私がお願いしたいのは、ちょっと写真をかえていただけませんか、これが私の南部排水機場のところなんですけれども、これが1口で毎秒約2.5ト

ンかえるようになっているわけなんですけれども、これは長除川という西輪中の水をかえるためのもの、その隣にあるのが2.5トンと0.75トンで田鶴境土地改良区の水をかえるようにしておるんです。

(スライド)

今私がお願いしたいのは、ここの横に映っていますのが連絡ゲートなんですけれども、これを今の水位計のところからもう一つつくっていただいて、田鶴、境の水も8.25トンでかえていただけるように、ポンプを全部つくりかえてくれと言っておるんじゃないかと、連絡ゲートを1つ設けていただいて、山除川と田鶴川を仕切る弁を、連絡ゲートを1つつくっていただいて、田鶴、境の水も8.25トンでかえていただけるようお願いしたいということで、今日は切にお願いして、これを私が生きておる間、皆さんの顔を見る間言い続けますので、ひとつよろしくお願いしたいと思います。

これで終わらせていただきます。

【公述人4】 私は、長島町の中部地区自治会長会の〇〇〇〇と申します。よろしくお願ひいたします。

私の住んでいます場所は、木曾川と長良川に囲まれたほんとうにどんぶりの底と言っぺいいほどのところに住んでおりますので、特に川云々ということよりも伊勢湾からの脅威というのを考えておりますので、高潮対策について、それから、あと、徳山ダムの導水路分割案の中で水質という問題についてちょっとお願ひしたいと思ひますので、よろしくお願ひいたします。

平成21年には伊勢湾台風から50周年を迎えようとしています。長島地域は高潮による未曾有の災害を受けました。今日までに堤防についてはスーパー堤防を整備していただきまして、住民は安全・安心な景観と環境を感謝しておりますが、高潮対策については根本的に未完成な部分のところを早期に完成させていただきたいと思ひます。

特に、木曾川右岸の高潮対策工事、また東海・東南海地震等の発生が2002年に発表されて、30年以内に発生確率が50%とされています。早期の完成のために、長島海岸の耐震対策工事を国直轄で望むものであります。長島というよりは、伊勢湾の海岸全体を国直轄工事で包括的な工事にさせていただきたい、こうお願ひしたいと思ひます。

それから、これも少し違ふんですが、防災拠点について、伊勢湾台風から50年たちますと災害経験者が減少しつつあることを踏まえて、長島町の白鷄防災拠点の早期完成をしていただき、住民に対して防災意識の高揚につなげていきたいと考えております。

また、これに関連しますが、輪中地帯の住民の生活道路の一部であります伊勢大橋のかけかえについて、決定から30年は経過しているんですが、着工の兆しは見れず、調査工事、点検工事は実施されているようなんですけど、早期に着工していただきたいことをお願ひしたいと思ひます。

今度は徳山ダムの導水分割案とそれから水質保全ということについてちょっとお願ひしたいと思ひます。

木曾三川の水質はおのおの異なる環境事情があると思ひますので、十分な環境調査を確認の上、下流域に影響を及ぼさないように上流部の水質浄化の促進、特に工業用水、生活排水、排水基準等の強化をお願ひしたい。長良川については、長良川河口堰の建設当時の取水口は、水質悪化をさせないように堰直上流部で取水するのが国の方針であったと思ひます。今回の取水計画地点では、河口堰までの距離が長く、水域がよどむことから水質悪化を招くことになるかと思ひます。

私が所属しております長島川をきれいにする会では、年に数回水質調査を実施している中で、これは岐阜県にございます長良川環境レンジャー協会の呼びかけで長良川流域一斉環境調査に参加し、水質調査をしてまいりました。このグラフにつきましては、平成19年6月3日に実施したときのものでございます。特にグラフでは、左側から右のほうへいくようにこれは上流から下流部に向かっております。下流部から支川という格好になっておりますので、ちょっとそれを参考にさせていただきたいと思います。

水質の目安としましては、pH、水素イオン濃度というのは、この赤のほうで特に出しましたのは、長良川導水の取水口、これは近鉄の鉄橋の少し南側、下流側でございますが、そこでいきますと約8、それから、長良川の河口堰から700メートルほど下ったところでいきますと、これが6.8ぐらいのところになっていると思います。それから、木曽川は大体同じような、東西に並べて同じようなところで木曽川の鎌ヶ地の地区なんです、そこでも大体同じような数値をあらわしておりますので、基準値から比べてもそう悪いということにはならないと思います。

ただ、1つだけ、COD、これは化学的酸素要求量、河川の水を比較するのに一番簡単な方法だということで、基準では1という数字になっておりますが、これは1mg/L、長良川導水道入り口ではかりますと4.8程度が出ています。ところが、これは長良川河口堰から約700メートルぐらい下ったところで、大島の排水機場の近くなんですが、そこではかりますと2mg/L、半分以下になります。木曽川の場合は、木曽川も同じような地点で2になっております。ということは、少しでもたくさん水を流していただくか、あるいは、これは揖斐川の水と混合されて数値がうんと下がったのではないかなと、こういうふうに考えておりますので、下流部に関しての水の量、あるいは上流部からのきれいな水を流していただければ、この数字は非常によくならないかなというふうに考えております。

(スライド)

それから、これは一番問題になっておるんですが、赤潮対策だとかいろんなことが言われておるんですが、このスライドからいきますと、アンモニアとかリン酸性リン、こういったものの栄養分がうんと流れてしまうことによって赤潮の発生が起きることが多々あると思います。

その中で、特に注意していただきたいのは、アンモニアの数値を見ていただきますと、長良川導水取水口のところと、それから長良川の河口堰から700メートル下ったところの値を見ていただきますと逆転しております。実際にはそれ以上増えてはいけないという

ところがあると思いますけども、それが逆に2つとも増えております。これは、下流にたまった堆積物、こういったものが攪拌された上で流れ出したものが水質が悪いために数字が上がったんじゃないかなと考えておりますので、水質の浄化、特に上流部の水質の浄化だとか、水量をたくさん流していただいて堆積物がきれいになるようお願いしたいと思っております。

また、こういうことから考えますと、水質の悪化をうんとよくするためには、どうしてもきれいな水を流していただきたいというのが1つの大きな願いでございます。また、伊勢湾へ全部流れていきますので、漁業、その他にも影響を与えることがあると思っておりますので、その点はひとつよろしくお願ひしたいと思ひます。

それから、木曾川については、今回の整備計画では、木曾川成戸地点で毎秒50トンを確保するとして昭和40年の木曾三川協議会の約束が守られていないということをお慮すべきことであるのではないかと申し上げて公述を終わらせていただきます。どうもありがとうございました。

【公述人 5】 どうも皆さん、こんばんは。私、この桑名市長島町に住みましてもう六十数年たつわけでございます。特に南のほうに住んでおります〇〇〇〇と申します。

今回、公述をさせていただくに当たっては、先般、この要旨と申しますか、原案、パンフレットを見せていただいて、その中に申込用紙があったので応募をしたわけですが、私どもの住んでおるところ、今日、公述人の皆さんは5人みえますけども、先ほど同じまちに住んでおる〇〇〇〇さんからもありましたが、特に木曾川、長良川、揖斐川に挟まれて、そして、さらに、その河川の最も河口にあって伊勢湾に面しておる。そして、その両3河川に挟まれた土地が、極端に低いところでいえばマイナス3メートルを超しておる地域がある。そんなところの治水を、ほんとうにこの要約版に記されておる目標を達成して大丈夫なのかということをもとに、ちょっと公述をさせていただきたいと思いました。

当地域は輪中の地域という河川より低い土地でございまして、今から約1,000年さかのぼると、伊勢湾につくられた三角州に住み始めます。その歴史の中で営々と、その住み始めの人たちが、治水、いわゆる水との闘い、そして水と一緒に生きてきた。そんな歴史の中で、先ほどの意見でありましたが、宝暦の治水だとか、あるいは明治の河川改修だとか、伊勢湾台風の高潮による、あるいは洪水による対策工事の実施だとか、また平成になっての長良川河口堰の事業に伴います河川の整備、営々と続けられてきております。

そうした中で、私ども、特に大きな体験をしましたのは伊勢湾台風でございます。もう既に50年近くになりまして、来年50周年を迎えるわけですが、私どもの周辺の者、あるいは家族、大きな犠牲をこうむった経験を持っております。

そんな中で、災害というのは、ほんとうにこの想定した範囲内で大丈夫かという問題があると思えます。特にこの要旨の中の例えば3ページの、木曾川、長良川、揖斐川の河川整備基本方針の中の高水のピークのデータ、私どもが経験したいわゆる東海豪雨のときに時間雨量70ミリぐらいですか。私どものまちの排水対策というのが時間雨量20ミリから30ミリぐらいで、今も言いましたようにマイナスゼロメートルから3メートルある中で、排水能力というのは、大体時間雨量20ミリから30ミリ降るともう浸水が始まるというような低いところにあります。それが当時排水機をつくる時には、時間雨量20ミリからせいぜい長く続かなければ40ミリぐらいなら大丈夫だろうと想定しておったのが、もう70ミリ、80ミリを平気で超すような時間雨量を記録することがあります。これも

地球の温暖化のせいだと思います。

そうした中で、今、山の伐採、あるいは支川の改修がどんどん進みますと、当然下流部にその負担がかかってくるわけでございます。そんな中で、果たして想定外の雨量、あるいは洪水というのがあり得ないのかどうか、そんなこともこれから対策をしていただく中で研究していただきたいと思っております。

以前、何かの機会で国土交通省の専門官から、もう世界の雨量というのは異常に変化していて、想定し得ないほど怖い状態だと言われた人もありました。

さらに、もう一つ逆に、今度は渇水でございます。渇水についても、私どもは農園をちょっと持っておるわけですが、台風なんかでも時期外れに来たり、あるいは乾期、雨の降らない日数といいますか、そんなのが今まで想定しておった、60年間経験をしたことのないような渇水が起こりつつあるのではないかと。

そうした中に、この要旨の中にもありますように、今もさきの公述人の方が言っておられたように、確かに渇水期、ほんとうにこの計画どおりの流量が保たれて下流部に流すことができるだろうか。導水計画なんかが計画されておる中で、この河口部は貝あるいはノリ養殖場として、今ちょうどノリの栽培の時期ですが、そうした中に、貝もそうですが、想定外の渇水なんかが起きたときに非常に計画どおりの流水量が保てるかどうか。そんなようなことを導水計画を進めるに当たっても、下流部の状況をやはり想定していただいた計画を進めていただくようなこと。

そして、もう一つ、盛んに言われております東南海地震あるいは東海地震における災害対策なんですが、当然まだまだ高潮堤防につきましても、木曾川の上流、長島町の上流ですが、大体10キロポスト前後、伊勢大橋から上流についてはまだ完成堤防にはなっていないと思っておりますし、いわゆる液状化現象の最も起こり得る地域に住んでおる者としては、その堤防の液状化現象に対する高水敷といいますか、根っこに当たる部分をしっかりと矢板等の工法も使って対策を講じておかないと、予想外の地震対策、震度7以上の場合があったときにどうなるのか、そんなようなことを思います。

8分過ぎましたので締めをしたいと思います。

もちろん、災害に対する対策が進められて安全・安心ということと同時に、今、私どもは観光の部分でちょっと携わっておりますが、非常にたくさんの方が来ます。500万人あるいは600万人と言われるほどの、小さな島の輪中の中へ観光客あるいは社会見学なんかに来てくれます。そんなときに洪水あるいは地震があったときに、三川に囲まれてお

るわけですから、いざというときには、橋がない、あるいは橋が壊れたというときに、どう避難するんだ、どう救援対策を講ずるんだということも含めまして、そして、もう一つ、500万人も来てくれるということは、水郷地帯、非常に日本の中でも水郷という特異な景観を持った、例えば木曾三川公園のタワーから見た水郷の景色というのは、あるいは多度山から見た水郷の景色というのはすばらしい景色だと思います。そういうことを考えまして、治水安全対策工事とあわせて環境の整備というのも非常に大切かと思います。

ほんとうに住みやすい、当時ここに住み始メートル人は、穀倉地帯でお米がとれる、洪水があってもお米がとれることが一番大切だと移り住んできました。そのお米がとれるために堤防をつくり、排水対策を講じ、いろんなことをやってきた輪中の最も低い地域の安全対策についてお願いをしたいと思います。

以上、長くなりました。



【公述人6】 多度から来ました〇〇〇〇でございます。公述人の〇〇〇〇、〇〇〇〇、〇〇〇〇、同じ多度でございますけど、その中でダブる部分があるかと思いますが、少し話をずらしながらお願いしたい、訴えていきたい、そう思いますのでよろしく願いいたします。

さきに提出させていただきました通知によりまして、4点ほど公述させていただきます。

1番目に堤防の占用料の問題でございます。前回のふれあい懇談会の際にもお聞きいたしました。これは県の管轄のことであつてと、こういう説明でございます。しかしながら、この占用料の問題は、以前に、先ほど、原案の中の3ページをちょっと見ていただくとわかると思うんですが、3ページの中で七郷輪中、香取川、この香取川の下あたりに位置します南之郷地域、ここの住民の生活にかかわる問題、この占用料のかかる一部の方々は赤い線が引っ張ってあります外側の川に住んでおられた、こういう経過がございます。それで、河川改修の折に、こちらのほうへ、今現在住んでいるところに住んでください、こういうことで移転をされました。それで安心・安全をいただけるものなら、こういうことで長年住み続けておられたわけですが、今回、多度町が桑名市に合併した折に、昨年の9月に突然に桑名市になったのでということで、平方メートル当たり240円の賃料が倍以上、500円払ってください。それも突然に9月に来て、10月いっぱい払ってください、こういう通知が参ったものでございます。非常に過去のいきさつもわからずにして、そこに住まれる方の住民の安心・安全、それを国が与えていただいた、そういう思いを打ち砕かれてしまった、そういう状況にあるところでございます。このことについては、県の話じゃなくてやっぱり国レベルの問題である、そのように思っ、今日は公述人にしていただき、ありがとうございます。これを強く、住民の安心・安全、なるほど洪水に対する対策についてはお願いをせないかん。しかしながら、こういう一部の住民の犠牲の上に立っていることについても忘れてはならない。

昨年の11月に徳山ダムの視察に行つてまいりました。そこには、昔から住んでみえる方の犠牲のもとに、今回我々は洪水に対する安心・安全を受ける、そのことを忘れてはいけない。そんな思いの中で、ところが、この地域の方についても、そういう過去のいきさつがあつて今日我々は安心・安全をいただける、そのことを無視してはならない、そう思っておりますので、よろしくご配慮をお願いしたいと思います。

次に、揖斐川の用水を利用しての下流域の住民に対する配慮を十分お願いしたい。水利権の問題でございます。先ほど〇〇〇〇が塩害の問題を話しておりましたが、地盤沈下の

関係もあって渇水時には塩害が発生する。過去から揖斐川から取水しておりましたこの東地区についても、時によっては塩害が発生するものですから水をとれない。

ところが、今回の徳山ダムから木曾川に向けて毎秒20トンの水を木曾川に流す、そういう計画をされておみえのようでございますが、やはり揖斐川から今まで取水させていただいていたこの地域の方々に、同じように居住できるような形のことを考えていただきたい。揖斐川の水は揖斐川の人の利益をもたらすようなことをおっしゃっていただきたい。それを、できたあげくに、それを余裕があるなということによそへ持っていかれることについては異議を申しませんが、今、東地区の塩害の問題で大変困っております。

そこで、私の薄学の中で少し考えたことがあります、塩分の濃ければ濃いほど下にとどる、真水が上に残るという論理がほんとうなら、その上の水をとるような方法も考えていただきたいな、そう思っております。

次に、多度・肱江川の早期の整備について、これは〇〇〇〇から盛んにお願いをされておりました。〇〇〇〇の話の中で、昔の人の話を聞いてください。いいかげんに、昔の人がいろんな装置なり形なり堤防の築き方なり、考えてやられたその歴史の知恵をやっぱり大事にさせていただきたい。以前に安八のほうで洪水があったとき、海津輪中の中で堤防がところどころ築かれていた。それを取ってはいけない。それを頑として取りたいという建設省の意向を打ち砕いて堤防を残した。そのおかげで下流まで水が来なかった。こういう話をおぼろながら覚えております。そういうこともございますので、ぜひそのことについてもよく配慮をしていただき、机上の話だけじゃなくてぜひお願いしたい、そのように思っております。多度川、肱江川については、やはり〇〇〇〇のおっしゃるように樹木が繁茂しております。ぜひもう一度ご検証いただきたいと思っております。

あと2分になりました。最後に、肱江川の改修、中須地域の工事の中断については〇〇〇〇が申されましたが、これはやっぱりスライドを見ていただいたとおりに、大水が出て時々屋根より高い水位まで来ます。ぜひお願いしたい。

それと、県道多度長島線が堤防に通っております。非常に道路が傷んでおりまして、通行するのも非常に危険でございますし、中須橋のあたりについては道路が狭いために非常に危険な状況で学生が自転車で通学しておりますので、ぜひ早期にお願いしたいと思います。

8分が過ぎて、少し残して終わらせていただきますが、よろしくご配慮をお願いしたい。ありがとうございました。